

・まとめと次年度への課題

初年度である今年度は、医療・介護保険それぞれのレセプトデータを用い、サービス利用の概略を把握するとともに、データの特徴を把握して今後の分析に向けた示唆を得ること、また、一部の自治体に対するヒアリングと住民に対する質問紙調査により、サービス利用や療養場所の移行についての本県の特徴を把握することを目指した。その結果、医療・介護レセプトの分析から、サービス利用の地域特性を把握した。また、ヒアリングからは在宅ケアへの整備体制に地域差がある可能性が示唆された。質問紙調査からは、住民が比較的早い段階で介護施設等へ移動する意向を有していることが明らかになった。

次年度は、医療・介護保険レセプトについて、より詳細で、かつ両者を突合したデータが得られる。そこで、まずはレセプトデータを用いて、医療・介護あるいは施設・在宅サービス間の円滑な移行とアウトカムとの関連についての検討を進める。具体的には、どのようなサービス導入が患者の入院回避や死亡などのアウトカムに効果があるのかを検証すること、退院と在宅サービス利用とのタイムラグの評価方法を検討し、アウトカムとの関連を検討することなどを行いたい。また、サービス導入やそのタイムラグの発生状況が地域によって異なるかどうかについても検証したい。

さらに、残りの自治体へのヒアリング、および、自治体以外のキーパーソンへのヒアリングも行い、圏内の医療連携体制とその課題について整理する。それと、前述のサービス導入に関する地域差とを合わせみて、医療連携体制の構築がアウトカムに与える影響について考察することを目指す。それにより、地域特性に応じた連携体制に関する提言を行っていききたい。